

令和 7 年度(2025 年度)(第 19 期) 横浜国立大学
副専攻プログラム「統合的海洋管理学」 募集要項・履修案内

1. 統合的海洋管理学副専攻プログラムの目的と概要

2007 年 4 月に海洋基本法が成立しました。国の施策として、大学に対しても海洋に関する研究と人材育成が強く求められています。このような社会的要請に対応可能な大学は限られていますが、港湾都市として発達してきた歴史を持つ横浜を本拠とする本学は、海洋関連の教育研究に関して、造船、海洋開発、海岸工学、海洋資源、海洋環境、沿岸域管理、海上保安等の分野で内外から高い評価を得てきました。

統合的海洋管理学副専攻プログラム(以下「プログラム」という。)は、科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と、海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理能力」の習得を目的にした修士課程の副専攻教育のためのものです。本プログラムを通じて、多様な分野の多様な専門能力と、海洋の統合管理に必要な視野の広さを兼ね備える人材の育成を目指します。

2. 応募要件

本学の学府・研究科・学環に在籍する大学院生

[注] プログラムを修了するためには、コア科目(必修)等の履修に加えて、別に指定する研究科・学府・学環の授業科目の履修が必要です。指導教員と相談したうえで応募してください。

なお、教育推進機構で開講する「統合的海洋管理学Ⅰ・Ⅱ」は、大学院全学教育科目として位置づけられており、プログラムの履修申請を行わない大学院生であっても、自由に履修できます。

3. 募集人員

プログラムの募集人員は、以下のとおりです。

博士課程前期・修士課程	40 名程度
博士課程後期	若干名

4. 修了要件

プログラム修了の認定には、以下のすべての要件を満たす必要があります。

- (1) コア科目(必修) 2 科目 4 単位の修得
- (2) 関連科目(選択) 3 科目 6 単位以上の修得
- (3) 修了年次におけるポスターセッションへの参加(毎年 2 月に実施予定。内容は各自の所属課程における研究等の内容と、それがどのように海洋と関連付けられるかを発表していただきます。)

5. プログラム授業科目

プログラム履修者は、「4.修了要件」に従い、【資料 1】を参照のうえ、以下の授業科目を履修してください。

- (1) コア科目(必修) 2 科目 4 単位
 - 「統合的海洋管理学Ⅰ」(春学期 2 単位)
 - 「統合的海洋管理学Ⅱ」(秋学期 2 単位)

※これらの科目は、大学院全学教育科目として開講します。

※シラバス及び日程表は【資料 2】及び【資料 3】を参照してください。

(2) 関連科目(選択) 3科目6単位以上

関連科目は、学府・研究科・学環が開講する授業科目の中から、プログラムが指定した科目です。

関連科目の一覧については、【資料1】を参照してください。

※コア科目及び関連科目の修得単位は、在籍する学府・研究科・学環の修了要件に含まれる場合があります。修得単位の扱いについては、在籍する学府・研究科・学環の担当係に確認してください。

6. プログラムの履修パターン及び応募期間

春学期から受講する場合

令和7年度(2025年度)春学期からのプログラム履修者は、春学期に、コア科目「統合的海洋管理学Ⅰ」を履修し、令和7年度(2025年度)秋学期に、「統合的海洋管理学Ⅱ」を履修します。また、コア科目の履修と並行して、関連科目(選択)を履修します。さらに、プログラムを修了するためには、令和8年度(2026年度)秋学期に行われるポスターセッションで発表することが義務付けられます。応募期間は以下のとおりです。

応募期間：令和7年4月7日(月)～4月18日(金)16時00分まで

提出物：①履修申請書 ②履修計画表

提出方法：授業支援システムによる提出

提出場所：統合的海洋管理学Ⅰ>授業・教材>共通資料など>レポート「副専攻プログラムとしての履修申請書類の提出用」

春学期から受講する場合

2025年度		2026年度	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
統合的海洋管理学Ⅰ	統合的海洋管理学Ⅱ (2026年2月ポスターセッションは参加義務)		ポスターセッション発表会

秋学期から受講する場合

令和7年度(2025年度)秋学期からのプログラム履修者は、秋学期に、コア科目「統合的海洋管理学Ⅱ」を履修し、令和8年度(2026年度)春学期に、「統合的海洋管理学Ⅰ」を履修します。また、コア科目の履修と並行して、関連科目(選択)を履修します。さらに、プログラムを修了するためには、令和8年度(2026年度)秋学期に行われるポスターセッションで発表することが義務付けられます。

応募期間：令和7年10月3日(金)～10月16日(木)16時00分まで

提出物：①履修申請書 ②履修計画表

提出方法：授業支援システムによる提出

提出場所：統合的海洋管理学Ⅱ>授業・教材>オリエンテーション、共通資料など>レポート「副専攻プログラムとしての履修申請」

秋学期から受講する場合

2025年度		2026年度	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
	統合的海洋管理学Ⅱ (2026年2月ポスターセッションは参加義務)	統合的海洋管理学Ⅰ	ポスターセッション発表会

7. プログラムの応募手続き及び履修登録

プログラムの履修を希望する大学院生は、指導教員と相談したうえで、必要な書類を前述の授業支援システムまたは以下 URL からダウンロードのうえ作成し、提出してください。

<https://www.yec.ynu.ac.jp/gsec/ioeprogram.html>

(1) プログラム履修希望者

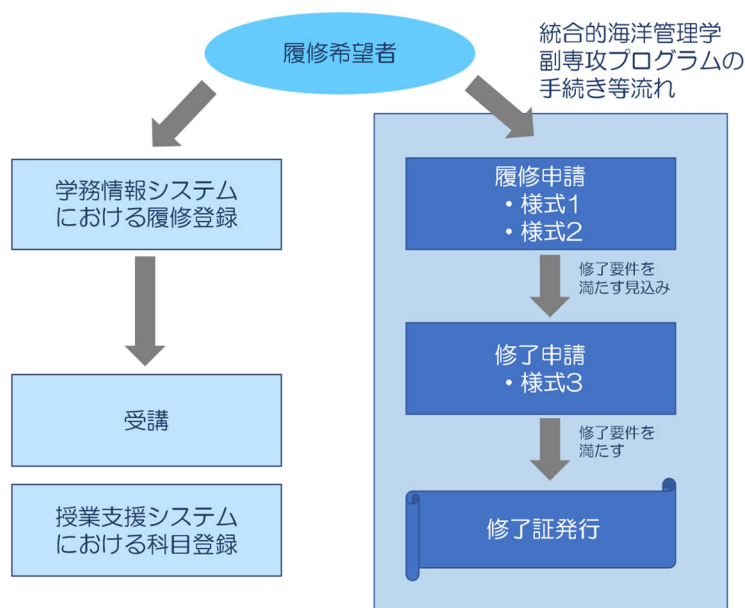
- ① 履修申請書【様式1】
- ② 履修計画表【様式2】

コア科目と関連科目の履修登録は、履修申請書【様式1】と履修計画表【様式2】を授業支援システムで提出するとともに、これらの科目は、在籍する学府・研究科・学環が定める所定の期間内に履修登録してください。

[注 1] 履修申請書【様式1】と履修計画表【様式2】を授業支援システムで提出しただけでは、履修登録は完了しません。必ず、在籍する学府・研究科・学環が定める期間内に履修登録を行ってください。

[注 2] 関連科目の単位は、在籍する学府・研究科・学環の修了要件に含まれる場合があります。詳細については、在籍する学府・研究科・学環の担当係に確認してください。

[注 3] 提出した履修計画表に変更がある場合は、新たに履修計画書を提出してください。



(2) 「統一的海洋管理学Ⅰ・Ⅱ」のみの履修希望者

「統一的海洋管理学Ⅰ・Ⅱ」は、大学院全学教育科目として開講しますので、特別な手続きは不要です。在籍する学府・研究科・学環の手続きに従い、通常の科目と同じように履修登録をしてください。

8. プログラム修了申請

プログラム履修者は、プログラムの修了要件を満たす見込みとなった時点で、授業支援システムで修了申請を行ってください。対象者には教育推進機構から、「修了申請手続きと修了ポスターセッションに関するお知らせ」を授業支援システムのお知らせ発信で通知します(修了申請の時期は1月下旬を予定しています)。

9. 副専攻プログラム修了証

プログラムの修了者に対し、『統合的海洋管理学修了証』を授与します。当該プログラム修了証は、いわゆる資格・免許ではありませんが、副専攻プログラムの修了者であることを証明するものであり、上記の目的に沿った人材育成教育を履修したことを証するものです。

10. プログラムの教務関係事務手続きおよびその他の問い合わせ先

教育推進機構大学院教育強化推進部門

(担当:教育企画課教育企画係 kyomu.kikaku@ynu.ac.jp)

【資料 1】令和 7 年度(2025 年度)統合的海洋管理プログラム授業科目一覧

1. コア科目(必修)

※科目詳細は教育推進機構にお問い合わせください。

時間割コード	科目名	設置学府名等	単位数	教員名	開講学期	開講日程	授業形態
9GC1101	統合的海洋管理学Ⅰ	大学院全学教育科目	2	オムニバス	春学期	月曜 4 限	対面・遠隔併用 (担当者ごとで異なる)
9GC1102	統合的海洋管理学Ⅱ	大学院全学教育科目	2	オムニバス	秋学期	月曜 4 限	対面・遠隔併用 (担当者ごとで異なる)

2. 関連科目(選択) (学府・研究科・学環において開講)…3 科目 6 単位以上

※時間割コードについては、必ず開講元の最新の履修案内を確認してください。

※博士課程のみ対象の科目もあります。科目詳細や最新情報については設置学府等にお問い合わせください。

時間割コード	科目名	設置学府名等	単位数	教員名	備考
9GC1201	沿岸域管理の法制度	大学院全学教育科目	2	加々美康彦	
9GC1202	海洋政策と法制特論	大学院全学教育科目	2	中原裕幸	
9GN1201 NA30114(理工) UC05023・ UC05024(学環)	リスクベースによる規則制定手法	大学院全学教育科目 理工学府	2	吉田公一 ／岡田哲男他	
9GN1202 NA30121(理工)	海洋産業特論	大学院全学教育科目 理工学府	2	田村兼吉	
9GC2101 RC00060(都市) UC07008(学環)	地域創造論	大学院全学教育科目 都市イノベーション学府	2	志村真紀他	
PC11001 UC09017・ UC09018(学環)	国際法研究Ⅰ	国際社会科学府	2	藤田大智	令和 7 年度開講
PC11101	国際法特論	国際社会科学府	2	藤田大智	
NA30254 UC06007・ UC06008(学環)	船舶設計システム工学論	理工学府	2	満行泰河	
NA30051 UC06011・ UC06012(学環)	乱流工学概論	理工学府	2	高木洋平	
NA30084 UC06009・ UC06010(学環)	浮体運動工学	理工学府	2	村井基彦	
NA30024 UC06013・ UC06014(学環)	海洋資源エネルギー工学入門	理工学府	2	西佳樹	

時間割コード	科目名	設置研究科・学府名等	単位数	教員名	備考
H320152 UC06015(学環)	海洋生物環境学Ⅰ	環境情報学府	1	下出信次	
H320202 UC06016(学環)	海洋生物環境学Ⅱ	環境情報学府	1	下出信次	
H320331 UC06017(学環)	環境法Ⅰ	環境情報学府	1	及川敬貴	
H320141 UC04033(学環)	古生態学Ⅰ	環境情報学府	1	和仁良二	
H320191 UC04034(学環)	古生態学Ⅱ	環境情報学府	1	和仁良二	
H320234 UC04011(学環)	地球システム科学Ⅰ	環境情報学府	1	石川正弘	
H320305 UC04012(学環)	地球システム科学Ⅱ	環境情報学府	1	石川正弘	
H320414 UC04037(学環)	湖と川の生態学Ⅰ	環境情報学府	1	鏡味麻衣子	
H320425 UC04038(学環)	湖と川の生態学Ⅱ	環境情報学府	1	鏡味麻衣子	
H990082 UC04041(学環)	古海洋学	環境情報学府	1	河潟俊吾	
H990231 UC06019(学環)	海洋地質学	環境情報学府	1	河潟俊吾	
RB00009	水圏防災論	都市イノベーション学府	2	鈴木崇之	
WAT0108	水圏防災特論	都市イノベーション学府	2	鈴木崇之	
RB00004	地盤設計学	都市イノベーション学府	2	早野公敏	所属学生のみ対象
WAT0104	地盤設計特論	都市イノベーション学府	2	早野公敏	所属学生のみ対象

令和7年度 副専攻プログラム「統合的海洋管理学」コア科目・関連科目 授業時間割表(春学期)

[illegible]

令和7年度 副専攻プログラム「統合的海洋管理学」コア科目・関連科目 授業時間割表(秋学期)

[illegible]

【資料2】令和7年度（2025年度）コア科目（必修）シラバス

コア科目は「統合的海洋管理学Ⅰ」「統合的海洋管理学Ⅱ」です。

関連科目（本要項の【資料Ⅰ】参照）については、各学府・研究科・学環のシラバスを参照してください。

第19期 統合的海洋管理学Ⅰ（令和7年度・2025年度春学期）

科目名（英文名） 統合的海洋管理学Ⅰ[Integrated Oceanic and Coastal Management Ⅰ] 担当教員（ローマ字表記） 鈴木 崇之[SUZUKI TAKAYUKI]							
開講学部等 開講時期	全学教育／教養教育 春学期 月 4	対象年次 クラス		単位数 時間割コード	2 9GC1101	使用言語	
特記事項		大学院全学教育科目					
ナンバリングコード			実務経験のある教員の授業				
【授業目的】 科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理のための基礎能力」の醸成を図る。本科目は、この目的を達成するために特別に企画されたオムニバス講義であり、海に関する学内外の多様な分野の専門家が最先端の知見を提供する							
【授業計画】 1. 海洋政策概論 2. 海と地球の歴史Ⅰ－生物編－ 3. 海と地球の歴史Ⅱ－地学編－ 4. 海洋学概論 5. 海洋生物学概論 6. 海上気象と気候変動 7. 海洋技術のフロンティア 8. 造船技術の歴史と将来 9. 海上輸送の現状と将来 10. 海底資源の利用と可能性 11. 島嶼地域と周辺海域の管理 12. 沿岸域の総合管理（地域における ICM の推進） 13. 沿岸域の自然再生 14. 港湾開発の歴史とその管理 15. 港湾における防災と BCP （講師の都合等により、講義内容に変更の可能性があります。）							
【授業時間外の学修内容】 海洋について、授業を通して得られた視点を持って、特に自分の専門外のことに對して積極的な調べ学習を実践する。							
【履修目標】 本講義を受講する過程で、海洋にまつわる多面的な視点を身につけることができる。また、自身の研究に関して、他分野の人に対しても伝わるように説明することができる。							
【到達目標】 海洋の歴史や構造ならびにその利用・開発・管理・保全のあり方についての論点を提示することができる。 海洋の統合管理に関する分野・専門能力の多様性を捉えるとともに、かかる多様性をもつ可能性と課題について説明することができる。							
【授業方法】 担当教員による対面講義を中心とする。 リアルタイムオンラインやオンデマンドの回もあるので、適宜確認すること。 また、各回に課題を課す。課題は各講義日の週中に授業支援システム経由で提出のこと。							
【成績評価の方法】 最終レポート等 25 点、各回の課題 75 点							
【教科書】							
【教科書補足】 教科書： 毎回資料を配布する。							
【参考書】							
【参考書補足】 上記参考図書以外については授業中に適宜指示する。							
【履修条件及び関連科目】 履修条件： 統合的海洋管理学Ⅰ,Ⅱの順での履修を推奨する 関連科目： 統合的海洋管理学Ⅱ							
【備考Ⅰ】 大学院全学教育科目							
【参照ホームページ】							

【資料3】統合的海洋管理学Ⅰ（令和7年度春学期）日程・講師一覧

月曜4限（14:40-16:10）

	講義 回	日付	講義タイトル	担当	
				所属 役職	講師名
Ⅰ 海を知る・Ⅱ 海を利用する	—	—	全体ガイダンス （授業支援システム）	横浜国立大学 都市イノベーション研究院教授	鈴木 崇之
	1	4/7（月）	海洋政策概論	神戸大学 リサーチフェロー	中原 裕幸
	2	4/14（月）	海と地球の歴史Ⅰ －生物編－	横浜国立大学 環境情報研究院 准教授	和仁 良二
	3	4/21（月）	海と地球の歴史Ⅱ －地学編－	横浜国立大学 環境情報研究院 教授	石川 正弘
	4	4/28（月）	海洋学概論	横浜国立大学 環境情報研究院 教授	下出 信次
	5	5/12（月）	海洋生物学概論	横浜国立大学 環境情報研究院 教授	鏡味 麻衣子
	6	5/19（月）	海上気象と気候変動	（国研）海洋研究開発機構 大気海洋相互作用研究センター センター長	米山 邦夫
	7	5/26（月）	海洋技術のフロンティア	（国研）海洋研究開発機構 研究インテグリティ・コンプライアンス室	赤澤 克文
	8	6/2（月）	造船技術の歴史と将来	横浜国立大学 工学研究院 教授	岡田 哲男
	9	6/9（月）	海上輸送の現状と将来	（株）商船三井 コーポレートマーケティング部 プロジェクトリーダー	若岡 邦昭
	10	6/16（月）	海底資源の利用と可能性	深海資源開発（株） 海外業務部長	岡本 信行
	11	6/23（月）	島嶼地域と周辺海域の管理	（公財）笹川平和財団 特任部長	小林 正典
	12	6/30（月）	沿岸域の総合管理 （地域におけるICMの推進）	（公財）笹川平和財団 海洋政策研究所 部長	渡邊 敦
	13	7/7（月）	沿岸域の自然再生	国土技術政策総合研究所 室長	岡田 知也
	14	7/14（月）	港湾開発の歴史とその管理	カナデビア（株）顧問 日本大学理工学部海洋建築工学科 客員教授	宮本 卓次郎
	15	7/28（月）	港湾における防災とBCP	カナデビア（株）顧問 日本大学理工学部海洋建築工学科 客員教授	宮本 卓次郎

問い合わせ先 教育企画課教育企画係（e-mail:kyomu.kikaku@ynu.ac.jp）

【資料 2】令和 7 年度（2025 年度）コア科目（必修）シラバス

コア科目は「統合的海洋管理学Ⅰ」「統合的海洋管理学Ⅱ」です。

関連科目（本要項の【資料1】参照）については、各学府・研究科・学環のシラバスを参照してください。

第19期 統合的海洋管理学Ⅱ（令和7年度・2025年度秋学期）

科目名（英文科）統合的海洋管理学Ⅱ[Integrated Oceanic and Coastal Management Ⅱ]							
担当教員（ローマ字表記）鈴木 崇之[SUZUKI TAKAYUKI]							
開講学部等 開講時期	全学教育／教養 教育 秋学期 月 4	対象年次 クラス		単位数 時間割コード	2 9GC1102	使用言語	
特記事項	大学院全学教育科目						
ナンバリングコード				実務経験のある教員の授業			
【授業目的】 科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理のための基礎能力」の醸成を図る。本科目は、この目的を達成するために特別に企画されたオムニバス講義であり、海に関する学内外の多様な分野の専門家が最先端の知見を提供する 【授業計画】 1. 世界と日本の海洋史 2. 海事活動の国際管理 3. 海洋の安全保障 4. 水産資源の利用と持続可能な水産業の姿Ⅰ 5. 水産資源の利用と持続可能な水産業の姿Ⅱ 6. 海洋再生エネルギーの利・活用 7. 海洋への人工衛星リモートセンシング技術の応用 8. 海の環境保全制度 9. 沿岸域管理の国際動向（仮） 10. 市民の海洋利用と海洋リテラシー 11. わが国の周辺海域を守る海上保安活動 12. 沿岸域の防災・減災・危機管理 13. 海底資源利用の環境配慮 14. シンポジウム又は学内開催 15. 修了生による ポスターセッション （講師の都合等により、講義内容に変更の可能性があります。） 【授業時間外の学修内容】 海洋について、授業を通して得られた視点を持って、特に自分の専門外のことにに対して積極的な調べ学習を実践する。 【履修目標】 本講義を受講する過程で、海洋にまつわる多面的な視点を身につけることが出来る。また、自身の研究に関して、他分野の人に対しても伝えるように説明することが出来る。 【到達目標】 海洋の歴史や構造ならびにその利用・開発・管理・保全のあり方についての論点を提示することができる。 海洋の統合管理に関する分野・専門能力の多様性を捉えたとともに、かかる多様性がもつ可能性と課題について説明することができる。 【授業方法】 担当教員による対面講義を中心とする。 リアルタイムオンラインやオンデマンドの回もあるので、適宜確認すること。 また、各回に課題を課す。課題は各講義日の週中に授業支援システム経由で提出のこと。 【成績評価の方法】 最終レポート 25 点（ポスターセッションへの参加なども含む）、各回の課題等 75 点 【教科書】 【教科書補足】 教科書： 毎回資料を配布する。 【参考書】 【参考書補足】 上記参考図書以外については授業中に適宜指示する。 【履修条件及び関連科目】 履修条件： 統合的海洋管理学Ⅰ、Ⅱの順での履修を推奨する 関連科目： 統合的海洋管理学Ⅰ 【備考Ⅰ】 大学院全学教育科目 【参照ホームページ】							

【資料3】統合的海洋管理学Ⅱ（令和7年度秋学期）日程・講師一覧

月曜4限（14:40-16:10）

	講義 回	日付	講義タイトル	担当	
				所属 役職	講師名
Ⅲ 海を 管理 する・ Ⅳ 海を 守る	—	—	全体ガイダンス （授業支援システム）	横浜国立大学 都市イノベーション研究院教授	鈴木 崇之
	1	10/6（月）	世界と日本の海洋史	神戸大学 リサーチフェロー（客員教授）	中原 裕幸
	2	10/13（月）	海事活動の国際管理	神戸大学海事科学部研究フェロー 笹川平和財団海洋政策研究所客員研究員	吉田 公一
	3	10/20（月）	海洋の安全保障	海上自衛隊幹部学校教官	高橋 秀行
	4	10/27（月）	水産資源の利用と 持続可能な水産業の姿Ⅰ	水産資源研究所・漁業管理グループ 主任研究員	竹村 紫苑
	5	11/3（月）	水産資源の利用と 持続可能な水産業の姿Ⅱ	水産資源研究所・漁業管理グループ 主任研究員	竹村 紫苑
	6	11/10（月）	海洋再生エネルギーの利・活用	横浜国立大学 環境情報研究院教授	村井 基彦
	7	11/17（月）	海洋への人工衛星 リモートセンシング技術の応用	横浜国立大学 都市イノベーション研究院准教授	比嘉 紘士
	8	12/1（月）	海の環境保全制度	ゲストハウスTonton Nobu オーナー	關野 伸之
	9	12/8（月）	沿岸域管理の国際動向（仮）	笹川平和財団海洋政策研究所 海洋政策研究部 研究員	田中 広太郎
	10	12/15（月）	市民の海洋利用と海洋リテラシー	ディスカバーブルー 代表理事	水井 涼太
	11	12/22（月）	わが国の周辺海域を守る 海上保安活動	五管海保クラブ 顧問	三木 基実
	12	1/5（月）	沿岸域の防災・減災・危機管理	横浜国立大学 都市イノベーション研究院教授	鈴木 崇之
	13	1/19（月）	海底資源利用の環境配慮	横浜国立大学 総合学術高等研究院特任教員（教授）	松田 裕之
	14	1/26（月）	シンポジウム又は学内開催	聴講及びレポート提出 （締切 別途指示）	
	15	2/16（月）	修了生による ポスターセッション	見学及びレポート提出 （締切 別途指示）	

秋学期講義全15回で、上表記載のとおりシンポジウム（又は学内開催）と、最終回のポスターセッションがあります。
いずれも履修生は参加必須です。